

# 脳動脈瘤予防「11カ条」

製鉄記念  
室蘭病院 林医師、市民に解説

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)の第28回市民公開健康セミナーが15日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、市民約50人が「脳動脈瘤の診断と治療」について学んだ。

この日の講師は林征志脳神経外科長。林講師は、脳動脈瘤の症状の特性について「全身の血管は3層なのに対し脳の血管は2層で、結果破れやすい」「発症は女性が男性の2倍」「コブが破れていない状態で見つかるケースが多い」などと説明。突然の頭痛や激しい頭痛から病院でのMRI(磁気共鳴画像)やMRA(磁気共鳴血管造影)の検査で判明するケースのほか、目の痛い症状でも見つかるケースがあるという。

治療方法では、脳動脈瘤の場所、形、大きさ、患者の年齢など総合的に判断する。大きさが重要で「5〜7ミリ以上で治療を考える」とし、方法は開頭手術か血管内治療で、小さい場合は経過観察となると説明した。

最後に、脳ドックの受診を勧め「一番大事なのは予防。手始めに高血圧から治しましょう」など予防11カ条を伝授した。(後藤史友)



脳動脈瘤について解説する林脳神経外科長